

1 調査の概要

(1)調査期日 令和7年4月17日(木)

※中学校理科はMEXCBTを用いたオンライン方式により、4月14日(月)～17日(木)の指定された日に実施

(2)調査内容 児童生徒に対して、教科に関する調査と質問調査を実施。学校に対して、質問調査を実施。

2 結果の概要
(教科別平均正答率)

※本市の結果のうち、黒字は全国を上回った教科、白字は下回った教科。

※全国平均正答率のみ、小数第1位まで公表されている。

※県、全国いずれも数値は公立校の結果を示したものの。

※中学校理科については、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で換算。(IRTスコア)

		小学校第6学年			中学校第3学年		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科※IRT
R7	大分市	70	62	61	53	45	501
	大分市 (平均正答率)	9.7/14	9.9/16	10.3/17	7.5/14	6.8/15	2.8/6
	県	69	60	60	53	45	501
	県 (平均正答率)	9.6/14	9.6/16	10.2/17	7.5/14	6.7/15	2.8/6
	全国	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503
	全国 (平均正答率)	9.4/14	9.3/16	9.7/17	7.6/14	7.2/15	2.9/6
R6	大分市	70	64		58	51	
	県	69	63		58	50	
	全国	67.7	63.4		58.1	52.5	

● 令和7年度 【全国平均以上 (平均正答率) を達成した教科数】 . . . 3/6 (50%)

● 令和6年度 【全国平均以上 (平均正答率) を達成した教科数】 . . . 3/4 (75%)

調査結果

<平均正答率・正答数>

	大分市	県	全国
正答率	70.0	69.0	66.8
正答数	9.7/14	9.6/14	9.4/14

<内容別平均正答率>

内容	大分市	県	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	84.7	83.8	76.9
情報の扱い方に関する事項	65.5	63.4	63.1
我が国の言語文化に関する事項	84.1	82.9	81.2
話すこと・聞くこと	67.0	65.8	66.3
書くこと	71.0	70.6	69.5
読むこと	60.3	59.8	57.5

【学習指導要領における領域・内容】第5・6学年 読むこと(1)ウ

【出題の趣旨】目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題。

【誤答の傾向】・無解答の児童が11.1%
・言葉の変化について納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書いているが、【資料2・3・4】のいずれかから取り上げられていない児童が11.0%

【指導上の留意点】

- 複数の資料を結び付けて読むことについて、読む目的を明確にした上で、それぞれの資料がどのような関係にあるかを考えながら読むことが大切である。
- 授業においては、目的に応じて資料にある語句や情報がどの部分と結び付くのかを印をつけたり線でつないだりしながら、それぞれの関係を捉えて自分の表現に生かす学習活動を設定することが重要である。

課題が見られる問題

(正答例)

言葉は年月とともに変化するということになっとくしました。なぜなら、「新しい」という言葉が、奈良時代に「あたらし」と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。

※次の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

	大分市	県	全国
正答率	61.9	62.8	56.3
無解答率	11.1	10.9	16.2

(条件)

- 言葉の変化についてなっとくしたことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○なっとくした理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

(2) 木村さんは、「資料1」を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、「資料2」、「資料3」、「資料4」に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

調査結果

<平均正答率・正答数>

	大分市	県	全国
正答率	62.0	60.0	58.0
正答数	9.9/16	9.6/16	9.3/16

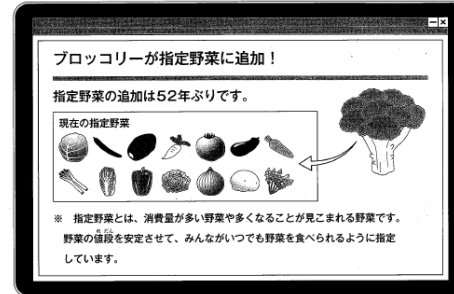
<領域別平均正答率>

領域	大分市	県	全国
数と計算	65.0	63.3	62.3
図形	62.7	60.0	56.2
測定	59.0	55.8	54.8
変化と関係	60.2	57.2	57.5
データの活用	65.1	63.0	62.6

課題が見られる問題

1

あいりさんたちは、2026年度からブロッコリーが指定野菜に追加されることをニュースで知り、指定野菜について調べることにしました。



グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか一つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。

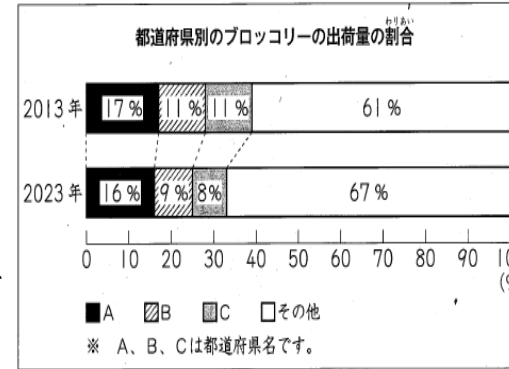
2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したかがわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。

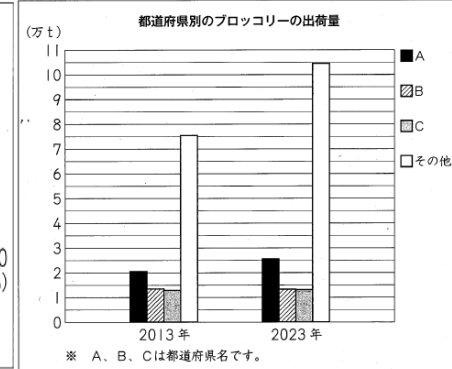
イ 2023年は2013年より減った。

グラフ2



(作物統計調査による。)

グラフ3



※ A、B、Cは都道府県名です。

(作物統計調査による。)

【学習指導要領における領域】 第5学年 Dデータの活用 (1) イ (ア)

【出題の趣旨】 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題。

【誤答の傾向】

- 目的に応じて条件に合った適切なグラフを選択することができていない。
- 選択した理由を、グラフから数値を読み取り、言葉や数値を用いて記述することができていない。

【指導上の留意点】

- 「データの活用」の学習では、データの特徴や傾向を捉えさせるとともに、問題を解決するために適切なデータを選択し、問題解決の方法を数学的に筋道を立てて説明できるようにすることが大切である。
- 授業においては、グラフが表していること(表題)や実際の数値の読み方等について指導するとともに、数値又は数値の変化から分かることをノート等にかかせたり、グループで自分の考えを説明させたりした後、全体で共有し確認することが必要である。また、目的に応じて条件に合ったグラフを選択できるよう、各グラフで「表していること」と「表していないこと」に目を向けさせる学習も重要である。

(正答例)

・【記号】ア

- グラフ3を見ると、2013年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は約2万t、2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量は約2.5万tで2023年の方が多いです。だから、都道府県Aのブロッコリーの出荷量は増えています。

	大分市	県	全国
正答率	35.7	32.8	31.0
無解答率	0.6	0.6	0.9

調査結果

<平均正答率・正答数>

	大分市	県	全国
正答率	53	53	54.3
正答数	7.5/14	7.5/14	7.6/14

<内容別平均正答率> ※本市の結果のうち、白字は全国平均を下回ったもの

内容	大分市	県	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	46.0	46.5	48.1
情報の扱い方に関する事項	—	—	—
我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
話すこと・聞くこと	51.4	52.1	53.2
書くこと	53.3	52.7	52.8
読むこと	60.8	61.1	62.3

【学習指導要領における領域・内容】第2学年 読むこと(1)エ
 【出題の趣旨】文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題。

【誤答の傾向】・無解答の生徒が36.9%
 ・文章の展開の効果について書くことはできているが、理由を書く際、「あとに続く話が、『一 榎木の実』にはあるが、『二 釣の話』にはない」という展開を踏まえて書くことができていない生徒が29.8%

【指導上の留意点】

- 文章全体の構成や展開について、なぜそのような構成にしたのか、展開にはどのような効果があるのかを考えながら読むことが大切である。
- 授業においては、複数の文章を比較しながら読む中で、文章の構成や展開による表現の効果について考える学習活動を取り入れることが重要である。

課題が見られる問題

(正答例)

読者の意表を突く**効果**がある。なぜなら、「**一 榎木の実**」には、失敗した兄弟が、お爺さんのおかげで成功する場面が書かれているため、「**二 釣の話**」も同じような展開になると予想して読み進める読者が多いと思うからだ。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

四
 「で開かれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

	大分市	県	全国
正答率	15.4	15.6	17.1
無解答率	36.9	33.7	28.1

調査結果

※本市の結果のうち、白字は全国平均を下回ったもの

<平均正答率・正答数>

	大分市	県	全国
正答率	45	45	48.3
正答数	6.8/15	6.7/15	7.2/15

<領域別平均正答率>

領域	大分市	県	全国
数と式	41.4	39.9	43.5
図形	42.5	42.0	46.5
関数	44.3	45.3	48.2
データの活用	55.8	55.6	58.6

【学習指導要領における領域】 第1学年 C 関数(1)比例、反比例

【出題の趣旨】 問題解決の方法について、関数の特徴を根拠に説明できるかどうかをみる問題。

【誤答の傾向】 ・無解答の生徒が43.0%
・直線のグラフをかいて利用することのみを記述している生徒が8.4%

【指導上の留意点】

- 関数の学習では、比例や反比例を用いて具体的な事象を捉えさせるとともに、問題解決の方法を数学的に説明できるようにすることが大切である。
- 授業においては、問題解決の過程を振り返る場面において、見通しをもつ場面で出された手段を取り上げ、解決方法を伝え合う場面で出された生徒の発言を生かしながら、「用いるもの(表・式・グラフ)」と「用い方」の両方を含んだ説明をノート等に書かせたり、板書に位置付けたりすることが重要である。

課題が見られる問題

- 8 A駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C駅とD駅の間にあるスタジアムによく行きます。

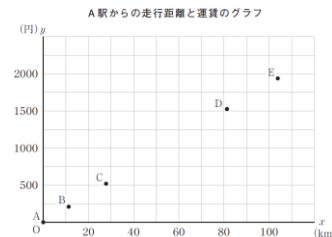


歩夢さんは、スタジアムの近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A駅から新しい駅までの運賃がいくらになるのか気になりました。そこで、A駅からの走行距離と運賃をインターネットで調べ、次のような表にまとめました。

調べた結果

	A駅	B駅	C駅	D駅	E駅
A駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930

歩夢さんは、上の調べた結果を見て、A駅からの走行距離と運賃にはどのような関係があるかわかりにくいと感じました。そこで、調べた結果をもとに、A駅からの走行距離を x km、A駅からの運賃を y 円とし、コンピュータを使って下のようなグラフに表しました。このグラフの点Aから点Eまでの各点の x 座標と y 座標は、それぞれA駅からE駅までの各駅のA駅からの走行距離と運賃を表しています。



- (2) 歩夢さんがさらに調べると、新しい駅はA駅から60.0 kmの地点につくられることがわかりました。そこで、A駅から新しい駅までの運賃がおおよそ何円になるかを予測することにしました。

A駅から新しい駅までの運賃を予測するために、前ページのA駅からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点Aから点Eまでの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、A駅から新しい駅までの運賃はおおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に運賃がおおよそ何円になるかを求める必要はありません。

(正答例)

- 点Aから点Eをもとに、直線の**グラフ**をかき、 **x 座標が60のときの y 座標を読む**。
- 対応する x と y の値をもとに、 x と y の関係を**比例の式**で表し、その式に **$x=60$ を代入し、 y の値を求める**。
- 表**の数値を用いて**比例定数を調べ**、その比例定数でA駅からの走行距離が**60.0kmになるときの運賃を計算する**。

	大分市	県	全国
正答率	33.0	33.7	38.0
無解答率	43.0	41.5	35.0

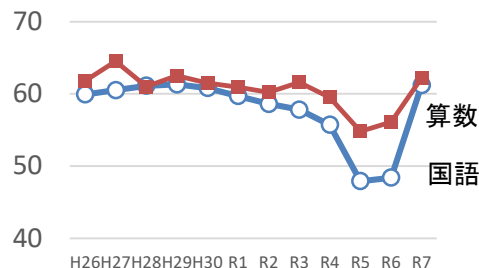
質問調査結果から見える状況(1)

大分市

※大分県学力定着状況調査及び全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

(1)－1教科の勉強は好きですか（肯定的回答率）

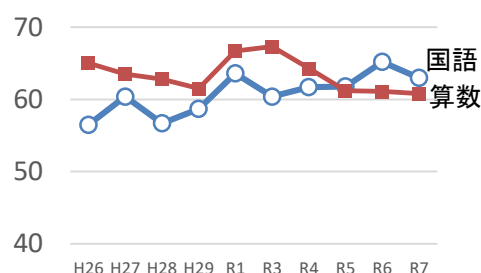
小学校(小5)



R7	大分市	県
国語	61.2	62.5
算数	62.2	63.9

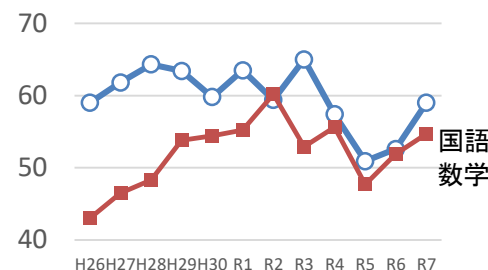
※全国の数値はない

小学校(小6)



R7	大分市	県	全国
国語	63.0	64.2	58.3
算数	60.8	60.8	57.9

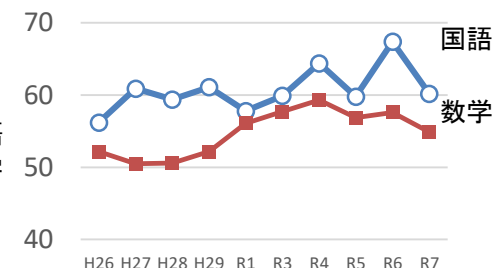
中学校(中2)



R7	大分市	県
国語	59.0	60.0
数学	54.7	56.7

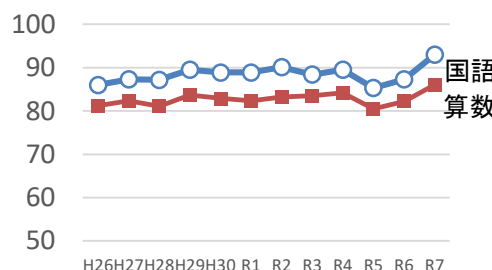
※全国の数値はない

中学校(中3)



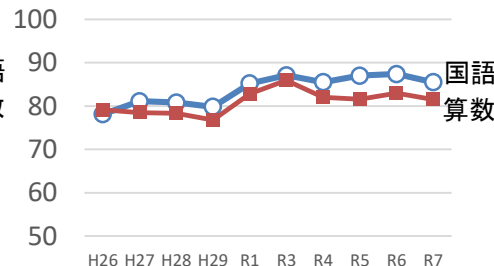
R7	大分市	県	全国
国語	60.2	61.0	57.9
数学	54.9	53.7	53.8

(1)－2教科の授業はよく分かりますか（肯定的回答率）

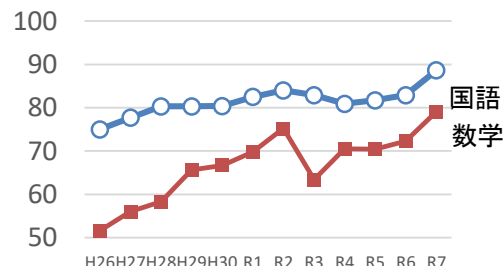


R7	大分市	県
国語	93.0	93.2
算数	86.0	86.5

※全国の数値はない

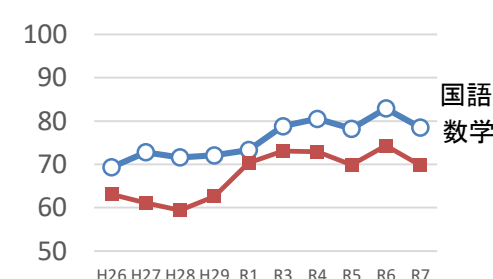


R7	大分市	県	全国
国語	85.5	86.5	82.8
算数	81.5	81.3	78.3



R7	大分市	県
国語	88.6	89.3
数学	79.1	79.9

※全国の数値はない



R7	大分市	県	全国
国語	78.5	77.9	77.0
数学	69.8	66.7	70.3

- 「教科の勉強は好きですか」「教科の授業はよく分かりますか」の2つの質問について、小学校第5学年と中学校第2学年はともに肯定的回答が増加している一方、小学校第6学年と中学校第3学年はともに下降している。

※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

(2)自分には、よいところがあると思いますか

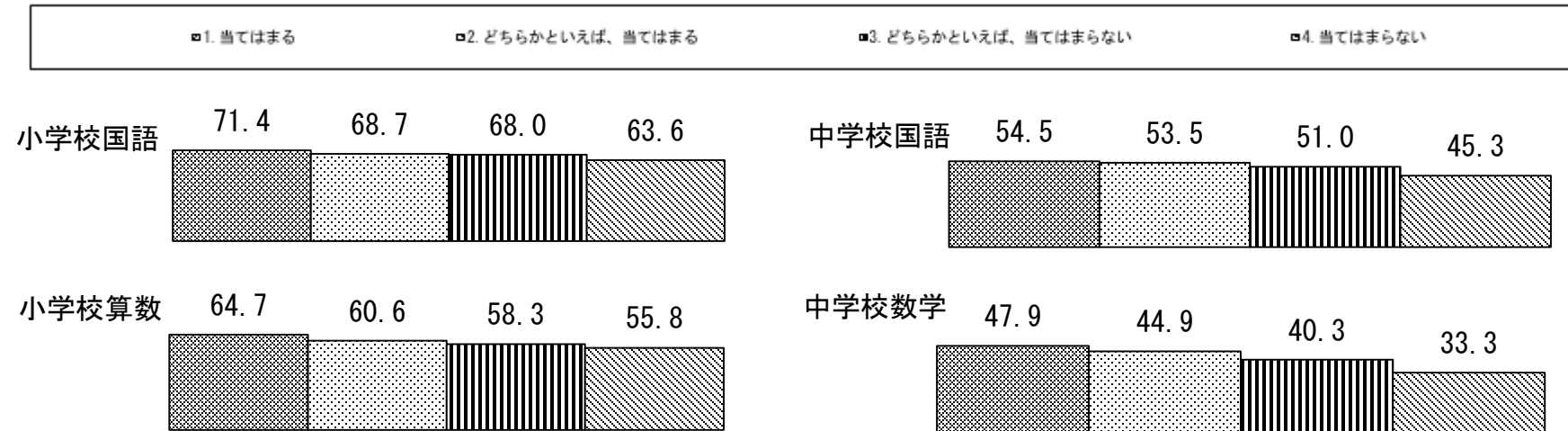
選択肢	1	2	3	4	その他(無回答等)
	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない	
小学校	48.2	41.0	7.8	3.0	0
中学校	42.2	46.8	8.6	2.3	0.1

■肯定的回答率

※選択肢1と2の合計

	大分市	県	全国
小学校	89.2	88.3	86.9
中学校	89.0	87.0	86.2

■児童生徒質問[自分にはよいところがある]の回答状況と教科の正答率のクロス集計



- 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校89.2%、中学校89.0%であり、小中学校いずれも全国平均を上回っている。
- クロス集計の結果では、自分にはよいところがあると思う割合が高いほど、各教科において平均正答率が高い傾向が見られる。

※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査による

(3)先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

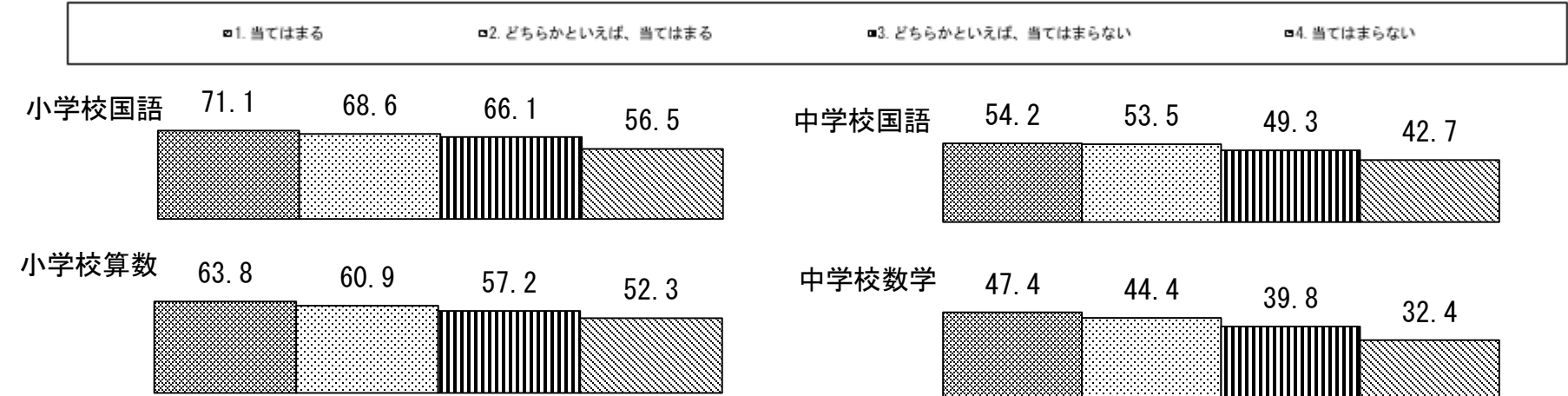
選択肢	1	2	3	4	その他(無回答等)
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
小学校	58.2	35.5	4.8	1.3	0
中学校	48.7	44.8	5.2	1.0	0.3

■肯定的回答率

※選択肢1と2の合計

	大分市	県	全国
小学校	93.7	93.5	92.2
中学校	93.5	93.2	92.2

■児童生徒質問[先生はよいところを認めてくれている]の回答状況と教科の正答率のクロス集計



- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校93.7%、中学校93.5%であり、小中学校いずれも全国平均を上回っている。
- 先生からよいところを認められていると感じている割合が高いほど、各教科において平均正答率が高い傾向が見られる。
- 設問(2)「自分にはよいところがあると思う」、設問(3)「先生がよいところを認めてくれている」については、ともに昨年度より肯定的回答率が増加している。

(4)総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

選択肢	1	2	3	4	その他(無回答等)
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
小学校	34.8	45.9	16.1	3.1	0.1
中学校	28.4	49.6	17.9	3.4	0.6

■肯定的回答率

※選択肢1と2の合計

	大分市	県	全国
小学校	80.7	81.5	82.3
中学校	78.0	78.7	79.5

■児童生徒質問[総合的な学習の時間の取組]の回答状況と教科の正答率のクロス集計

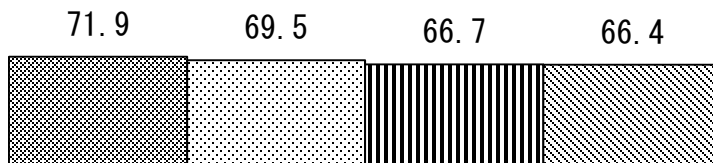
□1. 当てはまる

□2. どちらかといえば、当てはまる

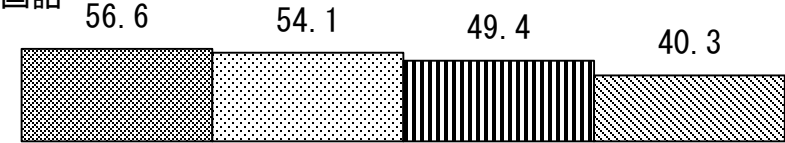
□3. どちらかといえば、当てはまらない

□4. 当てはまらない

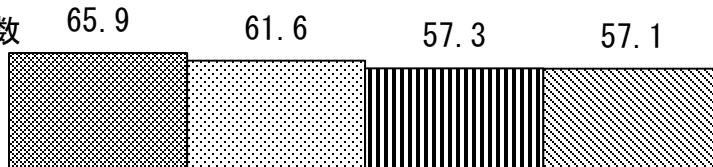
小学校国語



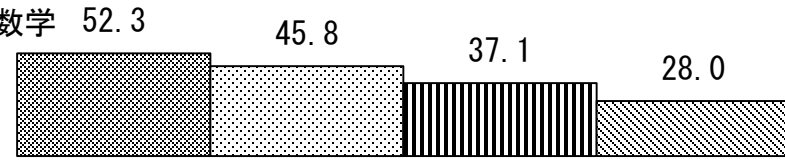
中学校国語



小学校算数



中学校数学



- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校80.7%、中学校78.0%であり、小中学校いずれも全国平均をわずかに下回っている。
- クロス集計の結果では、総合的な学習の時間に主体的・意欲的に取り組んでいる割合が高いほど、各教科において平均正答率が高い傾向が見られる。

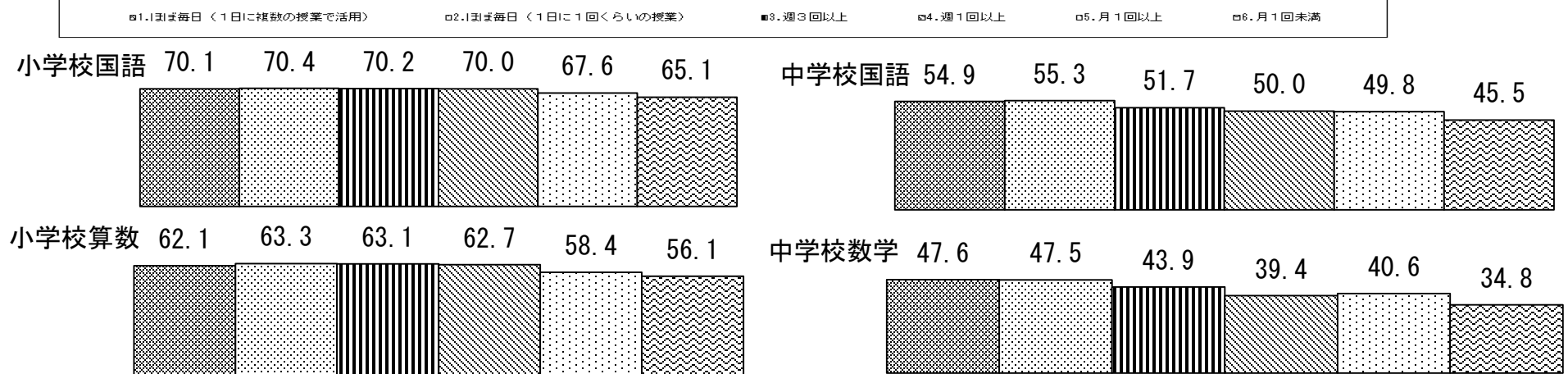
(5)前学年(小5・中1～2年)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

選択肢	1 ほぼ毎日 (1日に複数の授業で)	2 ほぼ毎日 (1日に1回くらいの授業で)	3 週3回以上	4 週1回以上	5 月1回以上	6 月1回未満	その他 (無回答等)
小学校	19.9	20.7	27.2	20.9	8.1	3.1	0.1
中学校	39.6	25.7	17.4	11.6	3.5	1.9	0.3

■肯定的回答率 ※選択肢1と2の合計

	大分市	県	全国
小学校	40.6	44.3	46.7
中学校	65.3	60.8	53.2

■児童生徒質問[ICT機器の活用]の回答状況と教科の正答率のクロス集計



- 「前学年(小5・中1～2年)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校40.6%、中学校65.3%であり、小学校は全国平均を下回っているものの、中学校は12ポイントあまり上回っている。
- クロス集計の結果では、1日に1回は使うなどICT機器の使用頻度が高いほど、各教科において平均正答率が高い傾向が見られる。

(6)あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか

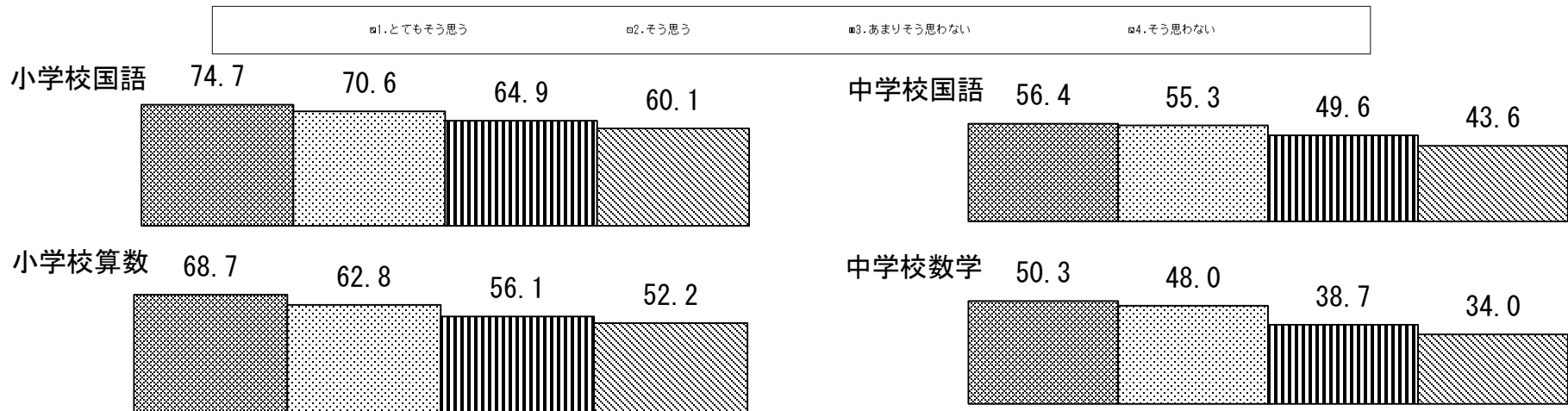
選択肢	1	2	3	4	その他(無回答等)
	とても そう思う	そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	
小学校	30.2	38.7	24.9	6.1	0
中学校	28.5	40.6	24.2	5.3	1.5

■肯定的回答率

※選択肢1と2の合計

	大分市	県	全国
小学校	68.9	69.5	76.7
中学校	69.1	71.1	76.6

■児童生徒質問[ICT機器を使つてのプレゼンテーション]の回答状況と教科の正答率のクロス集計



- 「あなたはPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか」の質問に対し、肯定的回答率は、小学校68.9%、中学校69.1%であり、小中学校いずれも全国平均を下回っている。
- クロス集計の結果では、ICT機器を使つてのプレゼンテーション作成に対する自信の割合が高いほど、各教科において平均正答率が高い傾向が見られる。

◆小学校

質問番号	質問事項										
(36)	調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他、無回答
貴教育委員会	25.0	66.1	8.9	0.0							0.0
大分県（公立）	36.9	56.1	7.0	0.0							0.0
全国（公立）	36.9	55.8	7.2	0.1							0.0

☐1. よくしている
 ☐2. どちらかといえば、している
 ☐3. あまりしていない
 ☐4. 全くしていない
 ☐その他、無回答

◆中学校

質問番号	質問事項										
(36)	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他、無回答
貴教育委員会	32.1	57.1	10.7	0.0							0.0
大分県（公立）	50.0	43.2	6.8	0.0							0.0
全国（公立）	39.2	52.3	8.3	0.2							0.1

☐1. よくしている
 ☐2. どちらかといえば、している
 ☐3. あまりしていない
 ☐4. 全くしていない
 ☐その他、無回答

- 「調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」の質問に対し、「よくしている」とする回答は、小学校25.0%、中学校32.1%となっており、全国平均を小学校は11.9ポイント、中学校は7.1ポイント下回っている。
- 総合的な学習の時間に主体的・意欲的に取り組んでいる児童生徒ほど、各教科において平均正答率が高い傾向が見られることから、総合的な学習の時間の充実に向けた取組が必要である。

◆小学校

※全国学力・学習状況調査 学校質問調査による

質問番号	質問事項										
(30)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他、無回答
貴教育委員会	17.9	76.8	5.4	0.0							0.0
大分県（公立）	31.6	61.1	7.4	0.0							0.0
全国（公立）	28.1	62.9	8.9	0.1							0.1

☐1. よく行った
 ☐2. どちらかといえば、行った
 ☐3. あまり行わなかった
 ☐4. 全く行わなかった
 ☐5. その他、無回答

◆中学校

質問番号	質問事項										
(30)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他、無回答
貴教育委員会	17.9	67.9	14.3	0.0							0.0
大分県（公立）	29.7	57.6	12.7	0.0							0.0
全国（公立）	23.6	64.2	12.0	0.1							0.1

☐1. よく行った
 ☐2. どちらかといえば、行った
 ☐3. あまり行わなかった
 ☐4. 全く行わなかった
 ☐5. その他、無回答

- 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか」の質問に対し、「よく行った」とする回答は小中学校共に17.9%となっており、全国平均を小学校は10.2ポイント、中学校は5.7ポイント下回っている。
- 児童生徒一人一人に応じた学習課題や活動を設定、工夫する上においては、まずは授業者が児童生徒一人一人の学びの経過やつまづきを把握することが重要である。

大分市学力向上推進プラン2025

学校教育課

日本国憲法、教育基本法、学校教育法
学習指導要領、第4期教育振興基本計画
大分市総合計画
大分市教育ビジョン2029
令和7年度学校教育指導方針

本市の目指す子ども像と3つの姿

ふるさとを愛し、新たな時代を創造することも

3つの姿

- 夢や希望の実現に向け、主体的に学び、自己の可能性を発揮する
- 豊かな感性をもち、多様な他者と協働しながら、よりよく問題を解決し新たな価値を創る
- グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける

確かな学力の定着・向上

主な課題 小4国語科「書くこと」の領域におけるつまづき / 記述式問題における無解答率の高さ / 勉強（授業）が好きと回答している児童生徒の割合の低下

育成を目指す
主な資質・能力

主体性

協働性

課題設定・解決能力

粘り強さ

1 確かな学力の定着・向上を図る学習指導

- 方針 ○ 「基礎的・基本的な知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく育成する
- 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を図る
 - 英語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指し、英語教育を充実する

国語科をはじめとした各教科等における書く力の育成

- ・ 付けたい力を明確にした指導の在り方（R5～）
- ・ 指導事項の理解、指導のねらいにおける児童との共有の在り方（R6～）
- ・ 単元構想に基づく指導の在り方（R7～）

※小学校及び義務教育学校前期課程における指導の重点

キーワード

指導事項、言語活動、目的意識、相手意識、学習指導要領、モデル文

育成した力を活用する場として

2 探究的な見方・考え方を働かせる総合的な学習の時間

- 方針 ○ 変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する

探究的な見方・考え方を働かせる総合的な学習の時間の充実

- ・ 学校の実践目標の実現に向け、学校や地域の実態に応じた探究課題の設定
- ・ 指導のねらいや育てたい力を明確にした年間指導計画の作成及び評価の充実
- ・ 総合的な学習の時間と各教科等を関連付けた単元配列表の作成、活用（R7～）
- ・ 他者と協働して問題を解決する学習活動の重視及び探究的な学習の充実



認知能力の育成

非認知能力の育成

今後の取組

【校内研修等】

- ◆ 校内研修における「授業力向上ハンドブック」や「大分市道徳指導ハンドブック（改訂版）」等を活用した指導・助言（要請訪問各学校1回以上）
- ◆ 小学校全学年を対象とした国語科の授業視察、研修動画等による「書く力の育成」についての説明
- ◆ 中学校第1学年を対象とした5教科（国・社・数・理・英）の教科指導マイスターとの授業視察
- ◆ 各校区の中小合同研修会（夏季休業中等）における総合的な学習の時間についての説明（演習）

【教育課程説明会等】

- ◆ カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた教育課程の編成
- ◆ 教科等横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントの軸となる総合的な学習の時間と各教科等を関連付けた単元配列表の例示
- ◆ 各学校の単元配列表の作成・活用状況の把握及び好事例の紹介

【学力分析シートの作成、活用】

- ◆ 各種学力調査の結果等を踏まえ、分析・考察を行い、指導上の留意点等を掲載した分析シートの作成
- ◆ 各学校の校内研修、各種研修会等における、本資料の効果的な活用
- ◆ 大分市標準学力調査分析説明会における調査結果を活用した効果的な取組についての説明及び協議

【研究推進校における実践】

- ◆ 研究開発校による自己調整学習に関する研究推進
- ◆ 学力向上研究推進校（仮）による書く力の育成に関することや総合的な学習の時間の充実に関する研究推進
- ◆ 公開研究発表会等を通じた、各学校への好事例や研究成果の還元